令和６年度「学ぼう！ふるさと未来」支援事業　実践活動記録

ふるさとの川の豊かさを学び、
ふるさとへの愛着や誇りを高める子供の育成
～ビオトープから地域へ～

１　はじめに

(1)　実践の目的

本校の自慢は、校舎横にあるビオトープである。このビオトープは、学校の敷地内の２箇所から湧き出ている天然の湧き水を引き入れている。湧き水は年中湧いており、一年を通して水温約 15℃の美しい水質を保っている。清流の証と言われる「バイカモ」や希少な「カワゴケ」等の水草、天然記念物の魚「トミヨ」を初め多様な水生生物が生息する豊かな環境が形成されている。この湧き水は大門校区にも多く湧き出て庄川やその支流の水環境の豊かさを支えており、広上取水場で採水された地下水は、「いいみず　射水」として販売もされている。このような地域の豊かな水環境と、その縮図として整備されたビオトープについての学びを通して、ふるさとのよさを実感し、ふるさとへの愛着や誇りを高めてほしいと願い、本実践に取り組んだ。

ビオトープ池の全体像

湧　き　水

ビオトープで見付けた「トミヨ」（天然記念物）

(2)　実践の内容・方法

・委員会やクラブ活動を通して児童が主体的に企画する活動を推進する。
・学年の発達段階に応じたふるさと学習を系統的に進める。
・保護者や教員、地域の方が共に学ぶふるさと学習を推進する。

上記の実践内容全般を通して、ゲストティーチャーとの関わりや体験活動を通して本物に触れる体験を重視し、地域の人・もの・ことの素晴らしさを感じることができるようにする。

２　活動の実際

(1)　全校での取組

ア　ビオトープ集会（飼育委員会・集会委員会）

５月、飼育委員会は、ビオトープ集会を開催した。学校探検をしてビオトープへの興味を高めている１年生に、ビオトープはどんな場所なのか、どんな生き物がいるのか、安全に利用するためにどんなことに気を付けたらよいのかなどを知らせ、ビオトープに親しんでもら

映像を使って分かりやすく説明する委員会児童

全校で楽しんだビオトープクイズ

おうという思いで企画した。飼育委員は１年生でも理解しやすいように、劇やクイズを使って表現を工夫しており、全校児童が一堂に会して大門小学校の自慢であるビオトープについて楽しく学ぶことができ、一体感を感じられる集会となった。この集会でさらに関心を高めた１年生は休み時間に目を輝かせてビオトープを訪れ、積極的に生き物や自然と関わるようになっていった。

イ　飼育体験活動（飼育委員会）

飼育委員会は、全校児童にビオトープに親しんでもらおうと、様々な企画を行っている。中でも人気の企画が「餌やり・水槽掃除体験」である。「なかよし水槽」の魚の世話は、飼育委員会の常時の当番活動として行っている。その活動を希望者に体験してもらうという活動である。

今年度も低学年を中心に多数の希望者が集まり、飼育委員会児童に教えてもらいながら飼育活動を体験した。体験した子供たちは、餌に集まってくる魚の生き生きとした様子に驚いたり、ブラシで磨くことできれいになった水槽を見て達成感を感じたりして活動を楽しんだ。「なかよし水槽」やビオトープへの親しみを醸成することができた。

水槽掃除体験に挑戦する子供たち

飼育委員会による水槽掃除

ウ　ビオトープ整備活動（ビオトープ探検クラブ）

ビオトープ探検クラブでは、ビオトープの環境を守るために、ビオトープに生息する生き物を観察、調査、飼育している。また、ビオトープを可能な限り自然に近い状態に保つために、ビオトープアドバイザーの指導の下、定期的にビオトープ整備を行っている、主な活動内容としては、アメリカザリガニの駆除や繁茂し過ぎた藻の除去等、適切な環境の維持に努めている。藻の除去作業では、池の藻を「たも」ですくい取り、その中にいる生き物を池に戻して藻を捨てるという手間のかかる作業であるが、子供たちは一つの生き物も見逃さないようにと丁寧に取り組んだ。また、アメリカザリガニの繁殖を食い止めるための対策としてアメリカザリガニの子どもを捕獲し、「なかよし水槽」の魚の餌にすることを試した。ビオトープ探検クラブの活動には、ビオトープアドバイザーが参加してくださり、子供たちの質問に答えたり提案をしてくださったりしている。専門家のアドバイスを受けながら子供たちは意欲的に活動を進めている。

真剣に藻を除去する子供たち

藻に絡まっている魚を探して逃がす作業

魚はビオトープに戻す

(2)　各学年での取組

ア　２年生の取組

２年生は、生活科の学習で「地域のすてき」見付けに取り組んでいる。その一環として地域の川に関係する２箇所を見学し、大門地区の水環境の豊かさを学んだ。大門漁業組合では、室内の広い水槽と餌やりの様子を見せていただいた。また、庄川養魚場では、アユやヤマメ（サクラマス）の生態について話を聞いたり、屋外の池で育てられている魚に実際に餌をやったりした。子供たちは、生き生きとした魚の様子に歓声をあげ、地域では魚が大切に育てられ、地域の川に放流されているということを学ぶことができた。

大きな水槽とえさやりの様子の見学（大門漁業組合）

ヤマメ〈サクラマス〉の生態を学ぶ（庄川養魚場）

養殖池でのえさやり体験（庄川養魚場）

イ　３年生の取組

３年生は庄川養魚場を見学し、サケの人口受精の様子を見せていただいたりオスとメスの見分け方を教わったりした。その後 12 月には、養魚場からサケの発眼卵をいただき学校での孵化に挑戦した。一人２匹ずつの卵を預かり、積算水温時間を記録しながら育てた。ペットボトルでつくった水槽を大切そうに運んで観察する姿からは、小さな命に心を寄せ、大切にしたいという思いの高まりが感じられた。実際に地域の川の命を育てるという経験は、子供たちにとってかけがえのない経験となった。今後４～５センチメートルくらいまで育て、庄川に放流する予定である。

養魚場でサケの受精の様子を観察する子供たち

卵の観察と積算水温の測定

ペットボトルでのサケの飼育と観察

ウ　４年生の取組

４年生は総合的な学習の時間にビオトープと地域の川について一年をかけて学習している。ビオトープは地域の川の縮図と言われているため、地域の川について知りたいと願う子供たちに鴨川調査を提案した。さらに、地域の川とビオトープを関係付けて考えたり、地域全体の地理・歴史的な特色についても学ぶ機会を設けた。

①　鴨川調査

総合的な学習の時間にビオトープについて自分の課題をもち、調べ学習を進めていた子供たちに、庄川の支流である鴨川とビオトープとを比べ、新たな視点をもってほしいと願い、鴨川調査を行った。子供たちは、歓声を上げて川に入り、

川の冷たさや川の流れの美しさを実感しながら「たも」を持って魚や水生生物を捕えた。同行していただいたビオトープアドバイザーや魚津水族館の学芸員が子供たちの質問に即座に答えてくださった。多種多様な水生生物を見付けることができ、中には大変珍しい生き物もいた。「多くの魚が大門の川にいたことが１番心に残った」「大門小のビオトープにも鴨川と同じ魚がいるんだ」子供たちは実体験を通して、地域の川の豊かさやビオトープとのつながりについて実感を伴って理解することができた。

鴨川に入り、夢中になって魚を探す子供たち

ビオトープアドバイザーから捕まえた魚の説明を聞く子供たち

②　ビオトープ調査

鴨川にビオトープと同じ生き物がいることを知った子供たちは、再度ビオトープの調査をしたいと考えた。そこで再び、ビオトープアドバイザーや学芸員の先生をお招きしてビオトープの生き物について調べた。実際にビオトープの生き物を捕獲してみると、ハゼやオイカワ等同じ生き物がいることが確認できた。捕獲した生き物を詳しく観察したり、先生方に専門的な話をしていただいたりして、ビオトープのことをより深く知ることができた。

ビオトープで捕まえた魚についての学芸員さんのお話

アドバイザーさんの生き物講座

③　地域の川の特色や歴史を学ぶ講演

「大門の水はなぜこんなにきれいなのだろう」と疑問をもった子供たちに地域の歴史にも詳しいビオトープアドバイザーの先生から「わたしたちの住む大門はすてき」と題して講演をしていただいた。

積極的に質問する児童

大門の水資源の素晴らしさを地理・歴史の面から教えていただいた。子供たちは「大門は庄川の氾濫が何度も起きたのに、住み続けるくらい素晴らしいところだと分かった」「自分が放流したサケがオホーツク海などに行った後、また大門に戻ってくることが分かって感動した」など今まで知らなかったふるさとのよさを発見することができた。

アドバイザーさんの講演会

(3)　ＰＴＡと連携した取組「親子ビオトープ観察会」の実施

本校では、ＰＴＡにビオトープの維持管理に協力していただいている。昨年度はビオトープの環境整備（藻を取り除く作業）をＰＴＡ役員と教員で行った。今年度は新しい企画として、本校ＰＴＡ事業企画委員会が、学校のビオトープを保護者の方にもっと知ってもらおうと、総合親子活動としてビオトープ親子観察会を初めて企画し、親子 143 名が参加した。

当日は親子が３つのグループに分かれ、４人のビオトープアドバイザーそれぞれに専門の話を聞いて回った。ビオトープの水環境や生息する動植物について解説していただきながら、水路や池、動植物を観察した。保護者の方にもビオトープの素晴らしさを実感していただく機会となった。

地域の川の特色を学ぶ学習

湧き水についての説明を受ける親子

ビオトープ池での生き物観察

(4)　教員がふるさとに学ぶ研修

地域の豊かな水環境について、教師自らが学びを深めようと教職員の地域学習を行った。ビオトープアドバイザーから地域の水環境や地理的な特色、水と共に生きてきた歴史等を聞き、地域への理解を深めた。また、湧き水や川、水路の水環境や取水場、洪水の跡地等を実際に訪れ、地域資源に直接触れる体験をすることができた。このような学びを今後も充実させ、子供たちの学びに生かしていきたい。

湧水池点で湧き水の美しさを学ぶ教員

３　まとめ

今年度は、しばらく実施を見合わせていた４年生児童の鴨川調査を再開したり、親子でのビオトープ観察や教員のふるさと学習等の新しい活動を企画したりするなど、ビオトープや地域の川に関わる充実した活動を行うことができた。また、地域のビオトープアドバイザーさんや魚津水族館の学芸員の方、地域の施設で魚の養殖に携わっておられる方等に関わっていただく機会を多く設けることができた。このようにして地域の川やビオトープの豊かさ、地域を愛する人に触れることで、子供たちは「大門ってすてき！」「大門はすごい！」「大門が大好き！」という気持ちを高めることができた。

これからもこの豊かなふるさとに学ぶ機会を充実させ、子供たちが地域の素晴らしさに気付き、ふるさとに誇りや愛着をもって生きていくことができるようにしたい。今後もこの魅力あふれるビオトープや地域の川を教材として、子供たちが存分に学ぶことができる活動を地域の協力も仰ぎながら工夫して実践していきたい。